

授業科目(ナンバリング)	日本語教授法B (CB302)			担当教員	東出 朋		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
日本語教育とは「日本語を母語としない人」に体系的に日本語を教えるということを用いる。恣意的、断片的に日本語を教える場合には日本語教育とは言えない。したがって、いかに体系的に教えていくのかを学ぶのが本講義の目的となる。履修学生は、日本語によるコミュニケーション活動に必要な能力（「受容」「産出」「やりとり」「テキスト」「方略」：国際交流基金 URL「JF スタンダード」2019 年 2 月 26 閲覧）を、学習者の目的に合わせ、向上させるスキルを学んでいく。							⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語学習者のレベルに合わせて授業の教案と教材を作成することができる。 教案に基づき、ウォームアップ、導入、練習、活動、まとめの流れで（大森他 2012: 8）授業が展開できる。 模擬授業での自己のパフォーマンスを省察的に振り返ることができる。				教案・教材作成 模擬授業 レポート	20% 30% 20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	模擬授業の担当者のパフォーマンスに対して、建設的なフィードバックを与えることができる。 模擬授業の担当者とその他の学生が、思いやりの気持ちを持って意見を交換し、学び合うことができる。				フィードバックシート ディスカッション	20% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
教案および教材作成を 20%、模擬授業を 30%、レポートを 20%、模擬授業担当者に対するフィードバックを 20%、ディスカッションを 10%で、評価する。レポートのフィードバックは授業で行う。							
授業の概要							
『みんなの日本語』という高いシェアを占める初級日本語教科書を用いてグループで模擬授業を行い、初級者の授業のあり様を体験してもらおう。教員は初級授業の展開の仕方について指導したり、模擬授業の準備や模擬授業での学生のパフォーマンスに対して助言を与えたりする。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 180 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』（2013）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』（2014）スリーエーネットワーク 市川保子（2005）『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク 参考書：『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 教え方の手引き』（2016）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 教え方の手引き』（2016）スリーエーネットワーク 高橋美和子他『続・クラス活動集 131—『新日本語の基礎2』準拠』（1996）スリーエーネットワーク 足立章子他『絵で導入・絵で練習』（2004）凡人社 指定図書：荒川洋平（2013）『日本語という外国語』講談社現代新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
模擬授業担当者は、時間に余裕をもって、教案や教材の準備を行うこと。 担当者以外の者は、次回の授業範囲を予習し、導入項目をよく理解したうえで授業に参加すること。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 初級前期の指導法⑫	オリエンテーション 模擬授業1、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅰ』第23課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.395-p.400「63:〜とき」、p.408-p.413「65:〜と」
2	初級前期の指導法⑬	模擬授業2、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅰ』第24課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.286-p.292「46:〜動作のやりもらい（授受）」
3	初級前期の指導法⑭	模擬授業3、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅰ』第25課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.401-p.407「64:〜たら」、p.430-p.435「68:〜ても」
4	初級後期の指導法①	模擬授業4、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第27課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.271-p.278「44:可能・〜ことができる」
5	初級後期の指導法②	グループ模擬授業5、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第28課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.384-p.387「61:〜し」
6	初級後期の指導法③	グループ模擬授業6、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第30課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.211-p.217「34:〜である・〜ておく」
7	初級後期の指導法④	グループ模擬授業7、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第35課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.414-p.422「66:〜ば」、 p.423-p.429「67:〜なら」
8	初級後期の指導法⑤	模擬授業8、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第36課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.238-p.243「〜ようにする・〜ようになる」
9	初級後期の指導法⑥	模擬授業9、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第37課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.265-p.270「43:受身」
10	初級後期の指導法⑦	模擬授業10、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第40課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『みんなの日本語Ⅱ』 p.120-p.129 第40課
11	初級後期の指導法⑧	模擬授業11、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第42課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.360-p.365「57:〜ために」
12	初級後期の指導法⑨	模擬授業12、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第43課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.123-p.130「69:〜そうだ（様態）」
13	初級後期の指導法⑩	模擬授業13、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第45課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.436-p.441「69:〜のに」
14	初級後期の指導法⑪	模擬授業14、担当者の省察、全体でのディスカッション（『みんなの日本語Ⅱ』第47課）	担当者：授業準備と省察 他の学生：『初級日本語文法と教え方のポイント』 p.131-p.137「22:〜ようだ」 p.144-p.148「24:〜そうだ（伝聞）」
15	初級後期の指導法⑫	前期と後期の授業を振り返り、自己の成長を図式化（複線径路・等至性モデリング）する。	予習）日本語教員養成課程を履修した経緯やこれまでの学習過程についてまとめる。 復習）図を完成する。